

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有
〒207-0015
東京都東大和市中中央 1-539-15
http://www.yumuyu.com/
e-mail:y.s.yumuyu@ozzio.jp

東北再興

Re-Create, TOHOKU!

2022年(令和4年)2月16日 水曜日

無料

第117号

毎月発行

発行 2022年(令和4年)2月16日 水曜日

【当新聞発行責任者 兼編集長兼記者紹介】

【砂越 豊】

宮城県生まれ、68歳の新人
歴史映像作家兼プロデューサー。3作目の「古代製鉄の埋もれた歴史を発掘した映像」の【奪われた古代鉄王国】の「大崎新4型作趣研究」をこの文化文を



《東北再興は女性が先導する?!》 若い女性が消える⇒未婚率上昇⇒人口減少 ⇒衰退…これを逆流させなければならない!

地方の未婚率上昇が 人口減少に直結する

実は、先月号に掲載しようと思っただけ、めでたい新年早々暗い記事もどうかと思ひ、控えたのが今回のこの記事だ。

総務省による二〇二〇年の国勢調査に基づき、三十歳時点未婚率を算出すると、男性が六十四・一%、女性が五十二・二%になるとい

さらに、二十五から三十四歳のシングル男女人口は、男性が四百三十八万三千人、女性が三百四十九万九千人で、この年齢層では全国平均で男性は女性の二十五%も多い。

都道府県別でみると、シングル男性余剰トップの栃木県は、男性は女性の一・五倍。男性が六万九千人に対して、女性が四万六千人で、差し引き二万三千人の男性があぶれる計算だ。

この数字は本気で対処しなければならない大問題であると思うが、適切な対策が打ち出されないまま、この流れに歯止めがかからないようだ。

その他の都道府県は、下のワーストランキングを参照されたし。

ちなみに東北は、福島がワースト七位、山形十四位、秋田十七位、岩手十八位、青森二十六位、宮城三十一位となっている。

北関東や東海地区に比べれば多少はましだが、男性余剰傾向は高い。いずれ近いうちに栃木の後を追うことになるだろう。

なぜこうなるか

まず全体の構造的な問題として、そもそも出生数からして男性の方が多い。また女性が早婚のため「差」が出る。

加えて、地方の事情がからんで、「差」が拡大する。具体的には、高卒後に地方から大都市圏に出て行くことが「差」の拡大を加速する。

宮城県で、地元から出た女性に意識調査をしたところ、高卒後に希望する進学先がなく東京圏に進学したとの回答が七割。しかも、進学先を決めた時点で五十四・五%が地元に戻る気がなかったと回答。進学を決める時点ですでに地方に見切りをつけているということなのだろう。

地元で就職しない理由は、「やりたい仕事、やりがいのある仕事がない」、東京圏に比べて年収が少ない、が上位の理由だとのことである。

地方企業の女性活用が課題

若い女性に地元への就職に呼び込むためには、家庭や職場、地域での固定的役割分担意識を解消しなければならぬという現場の声がある。

かつての女性の就職では、補助的な役割が求められることが多かったが、いまではそれは敬遠されているのに、地方では依然としてそ

うした就職口がなければ、若い女性の流出は止まることはないだろう。

地方人口減少歯止めは女性だけがカギを握る

こうした諸事情により、「地方から若い女性が消える」↓「未婚率上昇」↓「人口減少」↓「衰退」という悪循環を形成している。ではこの流れの連鎖を止めるにはどうすればいいか。

誤解を恐れずに言わせてもらえば、筆者は、進学問題とか就職問題だけに限った問題ではないと思うのだ。

端的にいえば、魅力的な地方が作れるかどうかであり、他所からたくさんの方が集まってくるような刺激的な地方の創出であり、そして付随する条件として、進学したい学校があり、就職したい企業があり、年収も高いということのような気がする。

若い女性とひとくくりにしてはいけないと思うが、若い女性は魅力的でもない地方に留まりはしない。さらに、魅力的な学校と魅力的な企業だけがあっても、若い女性は地方には留まらないと直感的に思う。

この点で、地方から大都市圏に進学した後、地方に戻る比率の高い男性群とはまったく異なると思えよう。

女性に魅力的なまちづくりは女性に聞け

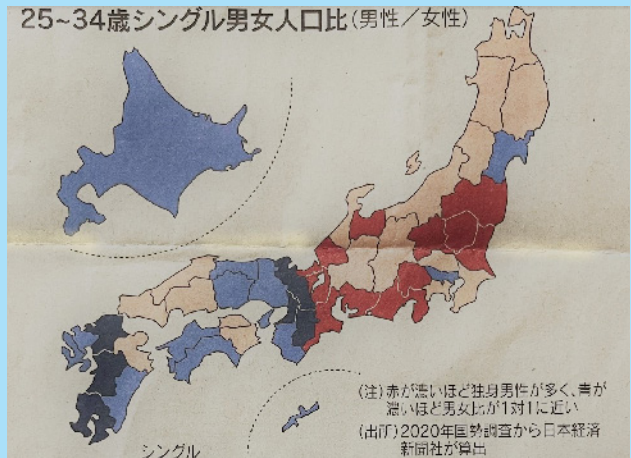
この一連の問題に適切な対策を真剣に考えようとするならば、地方から出て行って、戻って来ない若い女性たちに「本音」を聞いてみたらよい。

この問題を担当する地方自治体の男性職員がいくら考えても、妙案は出にくいだろう。また、地方に残った自治体の女性たちでも妙案は出ないかもしれない。

地方から出て行って、戻らない若い女性たちに「本音」を聞き出せなければ「妙案」は引き出せないと思うのだ。

「大胆案」を実行する決断が必要

そして「本音」を聞き出したとき、地方関係者一同はおそらく、あまりの問題の根深さに驚き、またがっかりするのではないかと秘



順位	都道府県	シングル人口比	順位	都道府県	シングル人口比
1	栃木	1.51	17	秋田	1.32
2	茨城	1.49	18	岩手	1.32
3	富山	1.45	19	広島	1.32
4	愛知	1.45	20	新潟	1.32
5	静岡	1.45	21	神奈川	1.32
6	群馬	1.45	22	石川	1.31
7	福島	1.44	23	香川	1.31
8	三重	1.44	24	千葉	1.30
9	山梨	1.41	25	埼玉	1.30
10	滋賀	1.41	26	青森	1.29
11	福井	1.40	27	徳島	1.27
12	長野	1.36	28	大分	1.26
13	岐阜	1.35	29	愛媛	1.25
14	山形	1.35	30	岡山	1.22
15	山口	1.35	31	宮城	1.22
16	島根	1.33	32	和歌山	1.22
			33	鳥取	1.22
			34	高知	1.20
			35	北海道	1.19
			36	佐賀	1.16
			37	東京	1.16
			38	宮崎	1.16
			39	兵庫	1.15
			40	沖縄	1.15
			41	長崎	1.15
			42	京都	1.14
			43	熊本	1.14
			44	大阪	1.11
			45	福岡	1.08
			46	奈良	1.07
			47	鹿児島	1.03

日本経済新聞 2021.12.16の『増える未婚「若い女性が消えた」より

女性に魅力的なまちづくりは女性に聞け。なぜなら地方に東京圏と同じような魅力が欲しいと言いつつ可能性が非常に高いからだ。さらに、そうした魅力のない地方にどうして縛りつけられなければならないのか、と。

もはや、過去のようには、若い女性を地方に縛りつけておく要因がすっかり消滅した現在では、古い考え方が依然として支配し、魅力的でない地方に留まる理由はもう存在しないのだ。しかし、今の地方に、一足飛びに、東京圏と同じような魅力は作れるだろうか。地方にはそうした決断が下せる大胆さがあるだろうか。他方、魅力的な地方を作れないとしたら地方の人口減少はどうやって食い止めるのだろうか。かつて、過疎の農村で導入したように、若い外国人

ジャパンラグビー・リーグワン《釜石シーウェイブス》初勝利！ 東北唯一のリーグワンチームを東北全体で応援したい！

秩父宮に応援に行く

二月十三日、秩父宮ラグビー場で、ジャパンラグビー・リーグワンのデビューシーズン2の第一節、釜石シーウェイブスとマツダスカイアクティブス広島の試合が開催された。釜石シーウェイブスにとっては4戦目となる。

初戦からの三戦がすべて敗戦となつているので、何としても勝利して欲しいという事で筆者も現地に応援に向いた。

天候はあいにくの雨。冬の雨で、雪に変わりそうなほど冷たい。観戦初戦という事で、意気込んで予約したメインスタンド最前列席は雨ざらしの席。

晴れ男を自認する筆者は、天気予報は単に予報にすぎない、現地に着けば曇りに変わるに違いないとたかをくくっていたが、現地の雨は止まない。

座席は水浸し。後ろに誰



なんと5トライの勝利

最前列は迫力満点

もないので、傘をさしても平気だろうと試合開始を待っていたら、傘はダメだと言われた。そこで、敷物代わりのレジ袋と簡易な雨がっぱを求めていざ観戦。観衆数は九百七十九人。さすがに事前の雪予報と当日の雨で空席が目立つ。

冷たい雨、簡易雨がっぱ、マスク、メガネとくれば、観戦環境としてはあまり良くはない。メガネに雨粒は落ち、またマスクからの湯気で曇る。なかなか試合に集中できない。面倒だとメガネを取れば、老眼と近眼のせいで見えない。

写真を撮るためスマホを構える前に、メガネを何度も拭いているうちにシャッターチャンス逃す。これならば重装備をしてくれればよかったと反省しきり。

しかし、それとは別に、最前列の迫力はすごかった。



入口のチーム旗

見事初勝利

試合の最初はゲームも拮抗していたが、ようやくトライゲット。しかし、すぐに相手にペナルティーキックを決められ、接戦になるかと心配し

たが、その後も順調にトライを重ね、そして前半終了。何か、前三戦とは違う意気込みを感じた。そして後半もトライを重ねる。これは勝てるぞと思いはじめたら、いつの間にか寒さを忘れていた。

こんなに強いチームなんだと心強かったし、わが釜石シーウェイブスが誇らしかった。試合が終わるまでドキドキの連続だったが、見事勝利のノーサイド。相手はノ

五トライ。見事な一勝だった。応援に来た甲斐があったし、悪天候・デメリットも吹き飛んだ。また今後も試合を見に行く決意を新たにしたい。すっかりファンになってしまった。チームをより身近に感じられた。

東北全体で応援する運動を起こしたい

前号で釜石シーウェイブスの状況を紹介したが、地元釜石にすっかり根付いていることが分かった。しかし、東北には釜石シーウェイブス以外に、ジャパンラグビー・リーグワンのチームがない。そのことを考えると、岩手・釜石を拠点にするのは大前提としても、その基本

基盤を広く囲む応援母体として、「東北全体」がホームだという視点は生まれないものだろうか。そして、何とか東北のチームとして、東北全体で応援し、チームもそれを受け容れるという相互の合意があればさらに良いのにも思つたのである。いわば、釜石は「第一ホーム」、東北は「第二ホーム」とするという考え方はどうであろうか。そうならば、東北関係者も堂々と、釜石シーウェイブスを通してジャパンラグビー・リーグワンを応援、支援ができるというものだ。ぜひ釜石シーウェイブスに検討をお願いする次第である。



勝利報告



スクラムと雨がっぱでの観戦



第90回

水産業再興のための料理レシピ紹介

《焼き鮭のとろろ丼》

しろ鮭の旨味が分かる丼です！
(松本談)



郷土料理愛好家
松本由美子氏

材料：（1人分） 鮭 1切れ、長芋のとろろ 40g、きざみオクラ 30g、温泉たまご 1個、かけ醤油 適量

料理方法：① 鮭に塩をふり焼きます。焼き鮭の身をほぐしておきます ② 長芋をすり下ろし、オクラは茹でて刻む(冷凍なら一度、お湯に通します) ③ 温泉たまごを作ります。 ④ 丼にご飯を盛り、ほぐし鮭をのせ、刻みオクラ、とろろ芋、温泉たまごを盛り合わせたら醤油で頂きます。

《2年ぶりの東北地酒を堪能！ようやくプレ三陸酒海鮮会が開催できました。ありがとうございました！— 1/22(土)》

(於：肉のヒマラヤ by ポルコロ 築地店)

ついに延び延びになっていたプレ三陸酒海鮮会が開催できました。開催直前までコロナの状況が心配でしたが、お店のご協力もあり、貸し切り状態で開催出来ました。また、そうした状況のなかでご参加いただいたみなさん、ほんとうにありがとうございました。皆さんにも再びお会いできて、東北地酒にも再会できてほんとに楽しかったです。次回はまた状況を見ながら、お声がけする予定です。その際はどうぞよろしく願いいたします。



東北地酒①



生ガキ最高！



ヒマラヤ肉までいただきました



東北地酒②

観光サイトでの情報発信の充実を

観光関連サイトのランキング

二月三日に、公益社団法人日本観光振興協会とインターネット行動ログ分析事業などを手掛ける株式会社ヴァリリーズが共同で、調査リリース「二〇二一年観光関連サイト閲覧者数ランキング」を公表した。このランキングは二〇一七年から毎年公表されているもので、全国の二〇歳以上男女の「ヴァリリーズモニター」の協力により、独自に定義する「旅行・交通」カテゴリのウェブサイトで各都道府県の公式観光情報サイトについて、年間閲覧者数を集計している。さらに「観光」を含む検索語とその検索者数も集計している。サイト閲覧者数や検索者数については、パソコンとスマートフォンそれぞれからのアクセスを集計し、国内ネット人口に則して二〇歳以上の動向を推測している。

まず、「旅行・交通」カテゴリのウェブサイトの閲覧者数について見てみると、パソコンで一位はじやらんネット(年間閲覧者数二七八〇万人)、二位は楽天トラベル(同二五三〇万人)でこの二つが三位以下を大きく引き離している。三位はJR東日本(同一五九〇万人)、四位はANA(同一四八〇万人)、五位はJAL(同一四四〇万人)と鉄道、航空会社のサイトが続く。スマートフォンではJALが六位になっている他はパソコンと概ね同様の順位と閲覧者数である。

都道府県別のサイトでは

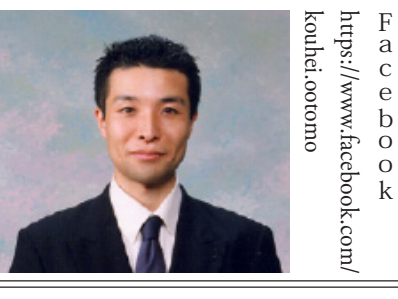
都道府県別の公式観光情報サイトの閲覧者数が興味深い。パソコンでは、大阪府の「OSAKA・INFO」が一位(年間閲覧者数同一〇五万人)、三重

県の「観光三重」が二位(同九〇万八千人)、山梨県の「富士の国やまなし観光ネット」が三位(同八八万三千人)、四位は新潟県の「にいがた観光ナビ」(同七五万三千人)、五位は岡山県の「岡山観光WEB」(同七二万二千人)となっている。

スマートフォンでも一位の「OSAKA・WEB」と二位の「観光三重」は変わらず、三位にパソコンでは一二位の愛知県の「Aichi Now」、四位が「岡山観光WEB」、五位が「にいがた観光ナビ」で、パソコンで三位だった「富士の国やまなし観光ネット」は七位となっている。愛知県のサイトはパソコンよりもスマートフォンからのアクセスに強く、山梨県のサイトはスマートフォンよりパソコンからのアクセスに強いことが窺える。

東北六県の観光サイトの実力

この調査リリースでは一五位までのランキングが紹介されているが、残念ながら一五位までの中に東北の都道府県は一つもランクインしていない。それ以降のランキングがどうなっているかについての説明もない。そこで、ウェブサイトの分析ができる「Similarweb」で調べてみた。



Facebook
https://www.facebook.com/kouhei.ootomo

「Similarweb」で見てみた「OSAKA・WEB」

KA・WEB」のデータのうち、「その他の旅行と観光」のカテゴリで、一番健闘している福島県がカテゴリーランク四六九位、平均滞在時間は二分一三秒となっている。これに対して東北六県のサイトを見てみると、平均滞在時間一分一三秒、合計訪問数九万九千人、平均滞在時間一分二秒であった。宮城県は九九七位、合計訪問数六万二千人、平均滞在時間一分八秒、政令指定都市である仙台市も似たり寄ったりで、カテゴリーランク九五五位、合計訪問数五万三千人、平均滞在時間一分〇秒であった。青森県と秋田県は合計訪問数が五万人未満というところで、ランキングなどのデータが得られなかった。ちなみに、東北六県と新潟県でつくる東北観光推進機構のサイトは、カテゴリーランク五八五位、合計訪問数一万人、平均滞在時間四一秒であった。

三重県の取り組み

こうした結果についてどう

う考えるべきだろうか。もちろん、各都道府県によって観光資源の違いがあるのは事実である。しかし、ランキングを見ると、必ずしも観光資源に恵まれているあるいは観光地として人気のある都道府県が上位に来ているとも言えないように見える。二〇一九年のデータだが、日本人の国内旅行先のランキング上位一五都道府県は、東京都、大阪府、千葉県、神奈川県、北海道、福岡県、静岡県、兵庫県、愛知県、京都府、長野県、広島県、埼玉県、栃木県、三重県である。各都道府県の観光サイトのランキングとは一致していないことが分かる。

①については、コロナ禍による観光需要の落ち込みに伴って既存コンテンツへのアクセスも急激に低下したを受けて、全国でもいち早く観光物産ネットショップや観光特産品を販売するなど、コロナ禍に対応したコンテンツを多数作成して事業者の支援を行い、県庁が実施した各種キャンペーンのPRサイトも運用して利用者が適切な情報をキャッチできるようにした。こうした取り組みによって、コロナ禍にあっても前年度を超える閲覧者数を獲得したとのことである。

東北各県が取るべき方策

こうした取り組みが実を結んで閲覧者数が大阪府に次いで第二位となったわけである。ここから分かることは、観光サイトというのは、作ったらそれで終わり、情報を発信したらそれで終わりというものではない、ということである。むしろ、そこからスタートだと言ってもいいかもしれない。発信した情報をいかにそれを求めている人たちがのところに適切に届けられるか、そこまで考えることが重要だということがよく分かる。もちろん、東北六県の担当者も努力しているのかもしれないが、残念ながら今のところそれが結果には結びついていないようである。

もう一つ重要な指標として、平均滞在時間を挙げておきたい。大阪府や三重県ではこれが二分を超えているが、東北各県はこれが軒並み一分台である。一度来た閲覧者がいかに長い時間滞在してもらうか、これは伝えたい情報をしっかりと伝えるために欠かせない要素である。これはサイトの見やすさ、情報の得やすさなどに影響されると考えられる。三重県の取り組みにあった「サイトの改善・充実」ということにはこのことも含まれるように思う。もう一つ、東北ならではの取り組みとして

は、先に挙げた東北観光推進機構の活用も考えられる。東北観光推進機構のサイトでは、東北六県と新潟県の情報を包括的に発信している貴重である。ただ、気掛かりなのは平均滞在時間が四一秒と短いことである。極端な話、来た人がチラ見しただけで素通りしていつてしまっている印象である。せつかくの地域全体の情報を発信できるサイトである。東北観光におけるスケールメリットを考えると、このサイトの有用性は疑いないところである。平均滞在時間を延ばす工夫、さらには各都道府県サイトとの有機的な連携も期待したい。東北観光推進機構で知った情報をさらに詳しく知りたければそれぞれ別のサイトにのこの情報はないが、恐らくは三重県と同様の取り組みをしっかりと行っていたのであろう。新潟県を見習って東北各県が自県のサイトの改善・充実を図りつつ、それらの情報のさらなるポータルサイトとして東北観光推進機構のサイトと結合することで、次年度はぜひ東北各県のランキングを期待したい。

【図3】都道府県公式観光情報サイトのPCからの閲覧者数

rank	観光情報サイト名	都道府県	URL	2021年 閲覧者数	2020年 閲覧者数	前年比	前年順位
1	OSAKA-INFO	大阪府	https://osaka-info.jp/	1,050,000	1,360,000	↓ 77.2%	1
2	観光一埠	大阪府	https://www.kanku.or.jp/	908,000	947,000	↓ 95.9%	2
3	富士の国やまなし観光ネット	山梨県	https://www.yamanashi-kankou.jp/	883,000	806,000	↑ 109.6%	5
4	にいがた観光ナビ	新潟県	https://niigata-kankou.or.jp/	753,000	573,000	↑ 131.4%	12
5	岡山観光WEB	岡山県	https://www.okuyama-kankou.jp/	712,000	636,000	↑ 111.9%	7
6	なら旅ネット	奈良県	http://www.nara-kankou.or.jp/	666,000	597,000	↑ 111.6%	9
7	ながさき旅ネット	長崎県	https://www.nagasaki-tabinot.com/	661,000	860,000	↓ 76.9%	4
8	しずね観光ナビ	山根県	https://www.kankou-shimane.com/	627,000	485,000	↑ 129.3%	15
9	滋賀・びわ湖観光情報	滋賀県	https://www.biwaku-visitors.jp/	613,000	620,000	↓ 98.9%	8
10	ちっつ、ちっつと！くまもろ	熊本県	https://www.kumamoto-guide.jp/	612,000	477,000	↑ 128.3%	16
11	おきなわ物語	沖縄県	https://www.okinawestory.jp/	592,000	886,000	↓ 66.8%	3
12	Aichi Now	愛知県	https://www.aichi-now.jp/	592,000	513,000	↑ 115.4%	13
13	観光いばらひ	茨城県	http://www.ibaraki-guide.jp/	574,000	594,000	↓ 96.6%	10
14	Go Nagano	長野県	https://www.go-nagano.net/	563,000	396,000	↑ 142.2%	22
15	まぶらとちば	千葉県	http://maruchiba.jp/	537,000	642,000	↓ 83.6%	6

※ヴァリリーズ提供データ。各都道府県の観光情報サイトを調査。国内ネット人口に則して20歳以上の男女を推測。©VAI IFS Inc

ダーク・ヒーロー住む誇り? 東北の親殺しと自己否定の事

戦後の高度経済成長長期を代表する国産特撮映画である『ゴジラ』(一九五四年)そしてカラーテレビ時代に入つての特撮二大ヒーローとして異論はないであろう『ウルトラマン』(六六〇六七年)と『仮面ライダー』(七二一七三年)、これらが全て東北人の手による作品である事は、結構知られているようで、ほとんど忘れられてもいる事実かも知れない。東宝映画『ゴジラ』は山形県朝日村(現在の鶴岡市)出身の本多猪四郎脚本・監督で、日本最初(つまり世界最初?)の怪獣着ぐるみ俳優・中島春雄も酒田市出身、そして両者に深く関わり、長らく日本の特撮技術の開拓を牽引し、『ウルトラマン』の大成功によつて「特撮の神様」と称された円谷英二は福島県須賀川市出身であった。とは言え、本多は少年期に家族とともに上京しているし、確かに堅実な職人気質や極めて温厚・懇切な性格は我が地元ならではのものだったと考えられなくもないが、出身というのはたまたまたたと言われればそれまでかも知れない。



奥羽越後現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、全国の旅の末、仙台に移住。どの本屋に入っても、とりあえず郷土本の棚に向かつて立ち読みを始め東北好きである。

冒頭から話題を変えるようにで恐縮だが『ロボコップ』(一九八七年・アメリカ)という映画について触れた。主人公は、凶悪犯罪者集団の銃弾を全身に浴び虐殺された一人の警官。しかし彼は警察を牛耳る企業の疑惑によつてサイボーグ警官となつて甦る、という出だしである。脳も破壊されているが、僅かに残存していた記憶によつて徐々に人間性を取り戻しながらも悪に立ち向かうという展開で、全米が熱狂し大ヒットを記録した。当時アメリカでは未だ『スーパーマン』のような明快なヒーロー像が主流で『ロボコップ』のような暗い背景を持つ所謂ダーク・ヒーローの登場は新鮮であり、以後ベトナム戦争や犯罪の凶悪化などの社会問題も相まって「憧れの存在とはちよつと違う複雑なヒーロー」はむしろ多様化し、主流化していったのだと思われる。

六〇年に『サイボーグ』という短編を描いた妖怪漫画の大家・水木しげるである。これは宇宙開発時代の過酷な環境に耐え得る肉体にと改造された男の悲劇を描いたものだったが、一方でこのサイボーグをヒーローとして描き出し、世間に広くその概念を認知させたのが石森章太郎の『サイボーグ009』(六四〇九二年)であった。

世界各国の九人の男女が悪の組織に拉致され、サイボーグ兵士という商品の試作として改造されるも、仲間もろとも脱出して巨悪との戦いを繰り広げていく、という物語で、当時スランブに陥り世界中を旅し回つたという石森の新視点が生かされたスケールとユニークさによつて、現在もアニメ化が繰り返されるなどその人気絶えぬ稀有な漫画作品の一つとなっている。実はこの作品登場直前に『エイトマン』(六三二六五年)の存在があった。エイトマンは犯罪者によつて殺害された殉職刑事の記憶や性格を、電子頭脳に移植したロボット刑事、つまり人造人間であったが、『009』が発表された後、『エイトマン』原作者・平井和正はその物語を小説『サイボーグ・ブルース』(六八〇九九年)として描き直している。内容は、設定を改造人間に変え、部分的に人間でありながらもはや人ならぬ存在でもある悲哀

を前面に押し出すという、『009』同様のダーク・ヒーローにしてそのハードボイルド版であり、まさに『ロボコップ』の原型と言つていいものであった。

サイボーグ・ダーク・ヒーローというスタイルを日本のみならず世界にも波及させたと言える『サイボーグ009』であるが、石森章太郎が世に問うた「サイボーグ・テマ」の作品はこれだけではない。言うまでもなく『仮面ライダー』がそれなのであった。

仮面ライダーもまた、謎の組織によつて改造されるも脱出し、巨悪の陰謀に立ち向かつていくサイボーグなのであるが、よくよく見ればこのヒーロー、奇妙な姿をしている。ウルトラマンと双璧を成すと言われる超人にしては普通のオートバイに乗つていて、『仮面』に当たるヘルメットやスーツは複眼や触覚、デフォルメされた顎や身体の節で飾つた「昆虫的」な不気味さを秘めた、一見アンチヒーロー的なスタイルなのである。この姿には、東宝の特撮ヒーローであるウルトラマンに対する東映側の徹底した差別化意識と、発案者である石森の「身体改造・超人化」に込めた彼なりのセンスとこだわりがあったようである。

実は、『仮面ライダー』の企画決定には何人も関係者の手が加わり、変更に

本稿の主題は、もう一方の東映特撮ヒーロー『仮面ライダー』の基本設定に深く関わり原作漫画作者としても知られる事実上の「生みの親」石森章太郎(のち石ノ森章太郎、読みは同じ)についてである。彼もまた、「宮城県に天才あり」とその高校時代から東京の漫画界で話題となつておりまたそのペンネームの苗字に出身地名を採用している事からも、東北の代表的作家である事は敢えて言うまでもない程だ(昨年のNHK「朝ドラ」『おかえりモネ』でも度々言及されていた事も記憶に新しい)。その偉大な事績を思うと、偶然かも知れぬとはいえ、まさに日本の特撮黄金期は東北人の発想力や人心を掴む性格、且つ粘り強さが築いていったものと判定しても間違いないような気もして

次ぐ変更で難航を極めた。もともとは「月光仮面」や「タイガーマスク」のような仮面つきのスポ根的ヒーローものとして企画され、後にオートバイや感電事故による超人化などの設定が加えられ、ここで石森がアイデア提供で加わつて、初めて「パツタ的モチーフ」が提示されたのである。

そのモチーフは一旦影を潜めるが、企画が練られるうちに石森の内から抑えられぬ衝動のように再び表面化する。「もつとリアルに、グロテスクにしたい」と。

何故、パツタだったのか。石森の言葉が残されている。「パツタは自然の象徴だ。パツタの能力を持った主人公が自然破壊に立ち向かうなんていうのはどうかな? そうだ、エネルギーは風だ。風力エネルギーが彼の原動力なんだよ。彼のベルトのバックルに風車の機構があつて、そこでエネルギーを獲得するんだ。」(『仮面ライダー』名人列伝「より」)

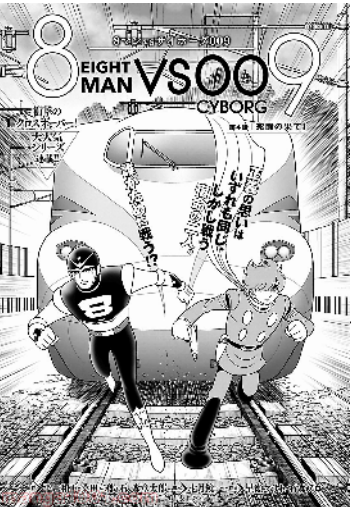
制作当時、公害病や自然破壊が社会問題となつており、この地球規模の脅威から人類を守る、という視点が映画やTVでの創作物語にも求められつあつた。

実際に作られたドラマにおける戦いに自然破壊との直接的関連がなく、その姿に決して自然の象徴という意図が気づかれぬにしても、その創造者のイメージは限りなく普遍的な巨視的問題

意識から醸造されたものでもあつたのである。それは先の大戦での原爆やその後続けられた水爆実験に対する感情が込められた『ゴジラ』にしても同様であり、いずれにしても己や家族が暮らすこの世界を破壊しつつある巨大な敵に対する、芸術家としての使命感、ペンを武器とする真摯な姿勢が東北人的気質と相乗し、作品として結実した、と言えるのかも知れない。

因みに、近年昆虫や海洋生物の持つ驚異的な能力を科学技術に応用するという試みが特に日本において先んじて為されるようになり、世界的に注目を浴びている。例として蜘蛛の糸の強靭性・伸縮性・耐熱性に着目しこれを人工的に作り出す事に成功した企業があり、他にもタコの皮膚が持つ擬態能力やチョウやハチの紫外線可視や超光速視認能力そしてパツタやノミの持つ跳躍力に代表される身体能力などが、人間の未来の生活に生かせないかと研究が続けられているのである。

改造人間として機械を埋め込まれるという解かりやすい描写は為されているが、仮面ライダーの強さは機械化された故のものではなく、極小ながら人間とは全く異なる驚異の世界に生きる、昆虫たちの力を与えられた所以であった。石森の「超人」への視線は彼が育つた東北・宮城県の自然に



「何と昨年『夢の共演』が実現! 『8マン vs 009』(秋田書店より)

対する深い関心と観察眼に裏付けられており、自然を発見し、理解する事が人間に纏わる固定観念を揺さぶる、新たな発想と未来への可能性を生むのだという事を教えてくれるようでもある。

一方で石森章太郎の「ヒーロー物」には「親殺し・同族争い・自己否定」の三要素が共通していると、ある評論家が指摘している。主人公が悪の組織によつて「最凶」兵器に改造されながらも脱出し、逆にこの母体とも言うべき巨悪と戦う正義のヒーローへと変貌する。そして本来悪そのものであるはずの己という存在に苦悩するのだ。石森は何故、このストーリーラインにこだわつたのだろうか。奇妙な連想であるが、このサイボーグたちの葛藤する姿に、石森章太郎自身が生まれ育つた東北の先人・蝦夷たちの影を見てしまうというの、飛躍のし過ぎであるうかもともと民族の違いなどなかったはずの、関東以西の「日本人」、大和朝廷という権力と戦う事になったという「親殺し」

状態、血を同じくするも信条の異なる者として関東以西の人々と対立する事になる「同族争い」状態、そして呼ばれたのかはたまた自称したのか、蝦夷という名を持つ事で大和民族である事を拒絶する「自己否定」状態。即ち、古代より「押し付けられた日本」を疑い、抗い度々敗れながらも、自らの「正義」を信じて戦い続けてきた東北人そのものの姿が、そこにあるのではないのか。魁帥・綾糟や阿弓流為始めとするこの地に生き、あるいは逃れてきた歴史上の人々として今を生きる全ての東北人こそが、暗く残酷な過去と現状を背負いながら戦うダーク・ヒーローなのではないのか。

石森自らが作詞したという『009』TVアニメ版の有名なOP、その最終節「サイボーグ戦士、誰が為に戦う?」

それは、この地の誰もが己の信じる正義を胸に、各々の力を放つ存在へと変身する。そんな時代への夢に問いかけられた、彼最大の命題だったのかも知れない。



洞窟内のツララ



氷筍



雪とウメモドキと猫じんじゃ



しぶき氷2



冬 早池峯神社



冬 早池峰古道跡の鳥居

シリーズ
 遠野の自然
「遠野の立春」
 遠野 1000 景より

暦ではすでに立春を迎えた。しかし全国では雪と寒波の嵐が吹き荒れている。関東圏では、雪国なら取るにも足りないわずかな積雪予報で交通マヒだ、なんだかんだと大騒ぎである。最近落ち込み気味のマス

メディアは視聴率を引き上げようと、何かと大騒ぎして、視聴率向上を狙っているようだ。しかし、大騒ぎした挙句の空振り情報で、結果的に取り越し苦労に終わるニュースはいい迷惑である。万が一のことを予防す

るためのニュースというのは屁理屈にすぎない。季節の循環は順調なのがいいに決まっている。いま寒い遠野には「寒い冬」が訪れている最中である。



どんと祭の炎



雪中カッパ

シリーズ【東北の災害の歴史】 第7回

列島の自然災害の原因は悪いことばかりではない! 自然災害と共存してきた歴史を忘れてはならない—克服より変化の気配に敏感に!

自然災害の「要因」は悪いことだけなのか?

前号まで、六回に亘って、列島の自然災害のさまざまな諸相について述べてきた。

それらをまとめれば、この百数十年で経験している自然災害よりはるかに規模の大きい数々の自然災害を乗り越えてきているのがこの日本列島という特異な場所であるという事実である。

またそれは現在では想像も困難な驚くべき規模の災害だったということである。しかし多くの自然災害にもかかわらず、この列島には大昔から多くの人間が生きてきたことも事実である。

この列島が、いや大昔からの東北という場所が、自然災害の悪影響だけで占められていたならば、人間がここに住み続けることはなかったはずだ。

必ず、住み続けるに値する何か良い側面があったはずだと考える。

温泉も、鉱物資源も、海産物も、四季も…

物事には必ず両面がある。災いだけでなく、同時に、人間にとって良いものももたらすのではないか。

それは、自然災害に関するも例外なく当てはまるのではないか。

例えば、火山であるが、噴火や火山灰は甚大な災害ももたらすが、他方で、噴火が収まれば、いつしか温泉も湧き出す。

また、地中から噴出したマグマが冷えると、さまざまな鉱物資源や貴金属類が地表に出てくる。それは工業資源や生活用具の素材ともなっていたし、あるいは貴重な装身具ともなっていた。

海は津波を引き起こしたり、時化の荒波が人を呑み込んだりするが、他方、四方を海に囲まれた列島に豊富な水産資源をもたらし、そして日本列島は世界有数の水産資源エリアでもある。

さらに、日本列島に四季をもたらす要因は、時として災害となる海流や太陽の位置変化による気温変化などであるが、この四季によって、人間の食物の多様性をもたらす。春、夏、秋はもちろん、冬でも、四季ごとに豊かな作物を

もたらす地域は世界でもめずらしい。このように、日本列島も東北も、大昔から、自然災害が発生する一方で、その自然災害を産む「要因」が豊富な恵みをももたらすという特殊な地域であったとはいえないだろうか。大自然の苛酷さと豊穡、一見すると相反する側面が共存して、人間の生活を支えてきたというのがこの列島の偽らざる姿ではないか。

自然災害のない地域などない

そもそも、この地球上に自然災害がない地域などあるはずがない。自然災害の種類は違いますが、地域ごとに自然災害は確実に存在する。

ただ、この日本列島は、国土が狭い上に、山間地が多く、平地が少なく、四方が海で囲まれているという自然環境のなかで、数多くの自然災害があり、他方で、豊穡な恵みもあるという特異な場所なのだ。

近代科学よ、思い上がるな!

東日本大震災の直後に盛んに言われた「未曾有の災害」という言葉は、いまになって冷静に考えると、ずい分とおごり高ぶった言い方だと感じる。つまり、あの大地震以外

の自然災害はほぼ克服して、あの災害だけが例外だと言っているかのようである。

たまたま、明治以来の氣象等の観測が開始された時からこれまで、非常に安定した地球環境が続いて、それこそ「未曾有」の自然災害がなかったというだけだという研究者もいる。

近代科学は、進歩すればするほど、人間には理解できないことばかり出現しているのではないか。

宇宙だってほんのわずかにばかり解明されたにすぎない。むしろ、研究が進めば進むほど分からないことがたくさん出てくるというのが真実であろう。また、宇宙どころか、この地球の海底のことさえ、未知のことがほとんど出現しているという現実もある。知れば知るほど謎が深まる自然。そして予測も不可能な自然災害の数々。

克服より変化に敏感に

地震やその他の災害の際に、人間よりも先に、動物の方が自然の変化を感じ取って退避行動する例がある。例えば、そんな迷信を信じているのは現代においてはおかしいと言われるだろう。しかし、ほんとうにそうしたことには迷信だろうか。

自然災害を克服したとうぬぼれるあまり鈍感になっている人間よりも、自然の変化に対して素直に反応しているとは言えないか。

電磁波の乱れを感じる能力とか、自然の微妙な気配の変化に敏感であるとか、十分にありうる話だ。だから動物の行動は単なる迷信だと決めつけずに、じっくり研究でもしてはどうだろうか。まじめな話として、動物の災害退避行動研究をスタートしてはどうか。



火山の間接的産物としての温泉



マグマから出てきた鉄鉱石



厳しい環境ゆえの豊富な海産物

写真でお伝えする 東北の風景

【冬の祭りーえんぶり】 写真撮影 尾崎匠

